

聴覚障がい学生の情報保障を行うテイカー育成の取組み

- 支援学生による講習ビデオ制作 -

Training Notes Taking Students for Guaranteeing Information Accessibility of Hearing Impaired Students

- Developing Lecture Videos by Volunteer Students -

杉澤榛高*1 皆川雅章*2

Harutaka SUGISAWA*1 Masaaki MINAGAWA*2

*1 札幌学院大学人文学部 *2 札幌学院大学法学部

*1 Department of Literature, Sapporo Gakuin University

*2 Department of Law, Sapporo Gakuin University

Email:R160175@e.sgu.ac.jp

あらまし：札幌学院大学では講義中の教員の発話を聴き取って文字化し提示することで聴覚障がい学生の情報保障を行うノートテイクとパソコンテイクという支援を実施している。この支援業務を担当する学生テイカーは、支援学生主体で行う講習会によって育成されている。本報告では、講習会の質の維持・向上と講師学生の負担軽減のために制作した講習ビデオの制作過程と内容を紹介します。導入効果を考察する。

キーワード：情報保障、聴覚障害、ノートテイク、パソコンテイク

1.はじめに

札幌学院大学では、聴覚障がい学生への情報保障手段である『ノートテイク』と『パソコンテイク』はアクセシビリティ・学生スタッフと呼ばれる支援学生により行われている。支援技術の継承は学生自身によって行われており、先輩学生が講師となって「講習会」を企画・実施している。講習会実施に際しての課題は、①受講学生と講師学生の時間調整、②特定の講師学生への過度の負担、③講習内容の質の維持、④テイクルールの更新の即時反映、がある。このような問題の解決策として、講習担当の学生自身が講習会の内容を『ビデオ』にまとめ、講習会で活用することを検討し実践した。今回は、その制作過程と内容について報告する。また、制作したビデオを講習会で使用した時の受講学生の反応を基に、導入効果について考察を行う。

2.これまでの講習会の仕組みとその問題点

ここでは、テイク講習会について、①開催に必要な人数、②講習の内容とテイク活動への影響、③講師への負担、の3つの観点から問題点を整理する。

①講習会を実施するには、講師のほかに受講者をサポートする学生テイカーが最低2人、受講生が多い場合はそれ以上の人数の確保が必要となる。サポート学生の人数が受講者数に対して少ない、逆に受講生が少なくサポート学生の人数が多すぎる、などの問題も生じている。

②講習会はパソコンテイク、ノートテイク共に全5回構成(図1)で、過去の講師学生達が作った説明スライドを使用して講習を行っている。教えるべき内容はスライドに書かれているが、そのまま読むだけでは講習内容としては不十分である。実演しながらのやりとりや、補足説明は講師学生の力量に依存し、受講生の理解不足や必要な知識の欠落に繋がることになる。スライドの内容とテイクの現状との間に整合性がとられていない状態で講習が実施される場合もあった。

③講習会は1回分の講義時間に合わせて実施するため、講師は最長で90分の間、教員役として教壇で話し続ける必要がある。普段は「講義を受ける側」の立場の講師学生にとって、長時間にわたり話し続けることは、かなりの負担である。

これらの問題を解決するために、講習ビデオを制作した。3つの観点から見た問題点を解決するために、講習会に必要な学生を減らし（PCの準備などで学生テイカーには少し手伝ってもらふ必要はある）。講師学生間で講習会の内容を議論し、統一を図ってその内容をビデオに反映させた。講師役をビデオに任せられるようにした。その制作過程と内容について、以下に述べる。



図1 テイク講習会の流れ

3. ビデオ制作にあたって

講習内容をビデオとして制作するにあたって、複数人の学生テイカーでこれまでの講習内容を検証し、提示すべき情報の取捨選択を行った。各スライドで、提示すべき情報を全て台本とスライドにまとめて、撮影を行った。ビデオの編集に際して、講師学生の発話速度を一定に保つようにし、音声の聴き逃がないように、字幕を付けた。スライドに画像や注意書きのテロップを載せて、視覚的な理解を促すように工夫した。ビデオのみで講習会が行えるように、ビデオで受講学生に指示を出すようにした。例えば、ビデオ内の講師が、「今から文章を読みますので、それを実際にテイクしてください～（以後読み上げ）」と言って、ビデオの指示で受講学生が動くシーンを入れた。また、テロップだけのシーンを作り、「※ここで一時停止推奨」というテロップと共に、今から受講生がやるべきことをビデオ内で示し（図2）、実際に行動に移してもらうシーンも入れた。

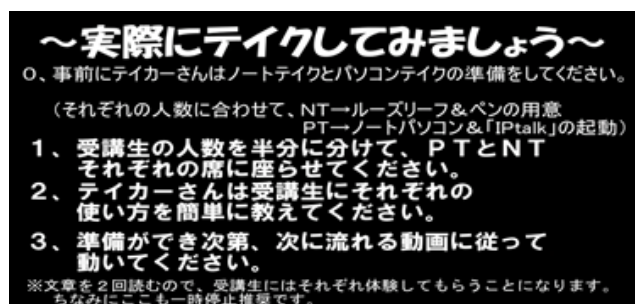


図2 ビデオ内のテロップによる指示例

4. ビデオを講習会で使用した際の課題点と考察

今回の取組みにおける課題点と考察は以下の2点である。

(1) 受講学生に実際に何か具体的な作業をさせる時にはサポート学生が動画を止めて指示を出さないと対応しきれないことが判明した。2～3人のサポート学生を待機させ、停止場面等を事前に確認しておく必要がある。

(2) ビデオ内で講師が一定のトーンやスピードで淡々とスライドに合わせて説明するだけでは、眠気を催すなど、受講学生の集中力を持続させることが困難である。今後は単調にならないような映像制作の工夫が必要である。

5. まとめ

テイカー向け講習会を行う際に生じる、講師学生への負担などの問題を解決するために講習会の内容をビデオ化した。ビデオを講習会で使用し、作業指示上の問題、受講時の集中力低下などの問題が抽出された。これらの問題の解決を図りながら、講習ビデオの質の改善を行っていきたい。ビデオ講習を受けて新たにテイカーとして教室に配置される学生テイカーの質について検証を行っていく。

参考文献

- (1) 杉澤榛高ほか：”学生による学生のためのテイカー講習会”，第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム，pp. 130(2017)
- (2) 東進 公式チャンネル：“東進学力増進号 vol.2 英語「基本動詞 (run)」編” <
<https://www.youtube.com/watch?v=rrEQmd3oqoM&t=11s>> (2018/02/11 アクセス)